

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|-----------------------|---|---------------|---|-------------------------|--------------------------------|-----------------------|---|---------------|---|---------------|---------------------------------|---------------|------------------|------------------------|-------------------------|---------------|-------------------|---------------|------------|---------------|----------|---------------|-------------|
| <p>2 現行授業の目標と教育効果及びそれに対する自己評価</p> <p>(記述式：900字以内)</p> | <p>1. 現行授業の目標と教育効果</p> <p>1) 情報関連科目 (情報科学, 情報技術の基礎, 情報技術の運用)</p> <p>1 年次は演習もを行い、コンピュータの基礎的な知識と利用方法を習得することを目標としている。ビジネス文書の作成を主な課題とした実習を行い、効果としては大学生活や実務に応用できるコンピュータの基礎的な知識と技能を習得することができる。2 年次は、プレゼンテーションソフトによるプレゼンテーションを行うことにより、パソコンを使用した効果的なプレゼンテーションができるようになる。また、企業社会で情報システムに関する基礎的な知識を活用していくことができるために、システム開発の基礎的な知識を習得することを目標としている。効果としては、システム開発の事例によるプログラミングを主な課題とした実習を行い、受講生はソフトウェアを中心としたシステム開発の手順と工程の理解を深めることができる。</p> <p>2) ゼミナール関連科目 (1 年ゼミナール, 2 年ゼミナール)</p> <p>1 年ゼミナールは農学ビジネス学科地域振興ビジネスコースの必修科目であることから、履修方法、授業や試験の受け方、レポート作成方法など、大学での学業のための基礎的な知識と技能を習得することを目標としている。効果としては、自己の学業生活を自己管理すること、設定された課題について論理的に説明すること、自己の進路目標を立案することができるようになる。</p> <p>2 年ゼミナールは、地域振興ビジネスコース 2 年次の必修科目であり、庄内ゼミナールでは情報技術に関する研究を通じ、情報活用能力を向上することを目標としている。効果としては、ネットワークによる情報システムに関する基礎知識が習得できることと、情報関連資格の取得ができるようになる。</p> <p>全ての科目で e ラーニングシステムを活用しており、授業時間外でも個別指導を積極的にこなしている。</p> <p>2. 自己評価</p> <p>受講生は、授業時間外でも自宅などから e ラーニングシステムを用いて予習や復習を進めることができた。学生は教員から新たな課題を提示されても、不安なく積極的に取り組むことができたと考えられる。効果としては、担当した全ての科目において、基礎的な知識を習得でき、目的と意図が理解されたと評価している。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>3 学生による授業評価も踏まえ、教育改善への取り組み</p> <p>(記述式：900字以内)</p> | <p>情報関連科目は 1・2 年次ともに、情報技術の基礎的な操作や知識の習得および、その応用ができるようになることを念頭において授業を展開した。成績の総合評価では平均が昨年同様となった。学生による授業評価によると、授業は理解しやすいかの質問に対し、「先生が様子を見に来てくれるので、質問しやすくよかった」、「先生の説明が丁寧でわかりやすかった」といった回答が多く多くの学生から得られ、満足度は高かったと考えられる。</p> <p>私語は気になるかの質問に対しては、ほとんどの学生が騒がしくないと回答した。授業の静粛は得られているが、一部の学生に私語がある。これに対し、授業で注意喚起を行って、静粛を保つ必要性を意識してもらおう。</p> <p>日本人学生と留学生は、それぞれがグループとなって行動することがある。留学生には早いうちに大学生活に必要な日本語の習得をしてもらいたいことと、日本人学生と留学生が共に議論のしやすい雰囲気を得られるために、e ラーニングシステムや SNS によって、双方向に意見交換もしている。また、受講生は授業内容を理解できたと答えている。留学生は最初の課題で日本語が難しく、課題の提出に時間を多く要する者もいるため、課題の意図と手順の丁寧な説明を必要としている。一方、同じ趣旨の課題を複数回課すことによって、ほとんどの留学生が日本人学生と同程度に課題の内容を理解し、早いうちに提出を済ませた。学習の遅れている学生が授業内容を理解するためには、このような反復学習が有効であると考えている。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>4 教科書、教材の作成状況</p> <p>(記述式：300字以内)</p> | <p>(1) 情報技術の基礎科目の演習教材 Windows, 電子メール, e ラーニング, Word, Excel に関する演習と説明課題</p> <p>(2) 情報技術の運用科目の演習教材 Word, Excel, PowerPoint, Access に関する演習と説明課題</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>5 学生の指導 (課外活動・厚生補導等)</p> <p>(主要 10 件以内)</p> | <table border="1"> <tr> <td>2007 年 4 月～2009 年 3 月</td> <td>陸上部顧問</td> </tr> <tr> <td>2007 年 4 月～現在</td> <td>お料理研究会 (部) 顧問</td> </tr> <tr> <td>2007 年 11 月～2007 年 12 月</td> <td>就職委員会依頼：コンピュータに関する資格取得対策講座の実施</td> </tr> <tr> <td>2007 年 4 月～2008 年 3 月</td> <td>全国大学実務教育協会「IT 活用能力テスト」の実施</td> </tr> <tr> <td>2007 年 4 月～現在</td> <td>コンピュータに関する資格取得希望学生に対する個別指導</td> </tr> <tr> <td>2007 年 5 月～現在</td> <td>中央職業能力開発協会「コンピュータサービス技能評価試験」の実施</td> </tr> <tr> <td>2008 年 6 月～現在</td> <td>パソコン検定協会「P 検」の実施</td> </tr> <tr> <td>2009 年 10 月～2014 年 3 月</td> <td>入学準備教育プロジェクトによる入学予定者の指導</td> </tr> <tr> <td>2014 年 4 月～現在</td> <td>入学準備学習による入学予定者の指導</td> </tr> <tr> <td>2014 年 4 月～現在</td> <td>女子バスケット部顧問</td> </tr> <tr> <td>2014 年 4 月～現在</td> <td>かたつむり部顧問</td> </tr> <tr> <td>2014 年 4 月～現在</td> <td>モノクロ (部) 顧問</td> </tr> </table> | 2007 年 4 月～2009 年 3 月 | 陸上部顧問 | 2007 年 4 月～現在 | お料理研究会 (部) 顧問 | 2007 年 11 月～2007 年 12 月 | 就職委員会依頼：コンピュータに関する資格取得対策講座の実施 | 2007 年 4 月～2008 年 3 月 | 全国大学実務教育協会「IT 活用能力テスト」の実施 | 2007 年 4 月～現在 | コンピュータに関する資格取得希望学生に対する個別指導 | 2007 年 5 月～現在 | 中央職業能力開発協会「コンピュータサービス技能評価試験」の実施 | 2008 年 6 月～現在 | パソコン検定協会「P 検」の実施 | 2009 年 10 月～2014 年 3 月 | 入学準備教育プロジェクトによる入学予定者の指導 | 2014 年 4 月～現在 | 入学準備学習による入学予定者の指導 | 2014 年 4 月～現在 | 女子バスケット部顧問 | 2014 年 4 月～現在 | かたつむり部顧問 | 2014 年 4 月～現在 | モノクロ (部) 顧問 |
| 2007 年 4 月～2009 年 3 月 | 陸上部顧問 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2007 年 4 月～現在 | お料理研究会 (部) 顧問 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2007 年 11 月～2007 年 12 月 | 就職委員会依頼：コンピュータに関する資格取得対策講座の実施 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2007 年 4 月～2008 年 3 月 | 全国大学実務教育協会「IT 活用能力テスト」の実施 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2007 年 4 月～現在 | コンピュータに関する資格取得希望学生に対する個別指導 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2007 年 5 月～現在 | 中央職業能力開発協会「コンピュータサービス技能評価試験」の実施 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2008 年 6 月～現在 | パソコン検定協会「P 検」の実施 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2009 年 10 月～2014 年 3 月 | 入学準備教育プロジェクトによる入学予定者の指導 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2014 年 4 月～現在 | 入学準備学習による入学予定者の指導 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2014 年 4 月～現在 | 女子バスケット部顧問 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2014 年 4 月～現在 | かたつむり部顧問 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2014 年 4 月～現在 | モノクロ (部) 顧問 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>6 その他</p> <p>(主要 5 件以内)</p> | <table border="1"> <tr> <td>2007 年 7 月</td> <td>シスコ・ネットワークングアカデミートレーニングにより CCNA1 のライセンス取得</td> </tr> <tr> <td>2007 年 8 月</td> <td>シスコ・ネットワークングアカデミートレーニングにより CCNA2 のライセンス取得</td> </tr> <tr> <td>2007 年 8 月</td> <td>シスコ・ネットワークングアカデミーカンファレンスの研修に参加</td> </tr> <tr> <td>2007 年 12 月</td> <td>シスコ・ネットワークングアカデミートレーニングにより CCNA3 のライセンス取得</td> </tr> <tr> <td>2008 年 2 月</td> <td>シスコ・ネットワークングアカデミートレーニングにより CCNA4 の研修に参加</td> </tr> </table> | 2007 年 7 月 | シスコ・ネットワークングアカデミートレーニングにより CCNA1 のライセンス取得 | 2007 年 8 月 | シスコ・ネットワークングアカデミートレーニングにより CCNA2 のライセンス取得 | 2007 年 8 月 | シスコ・ネットワークングアカデミーカンファレンスの研修に参加 | 2007 年 12 月 | シスコ・ネットワークングアカデミートレーニングにより CCNA3 のライセンス取得 | 2008 年 2 月 | シスコ・ネットワークングアカデミートレーニングにより CCNA4 の研修に参加 | | | | | | | | | | | | | | |
| 2007 年 7 月 | シスコ・ネットワークングアカデミートレーニングにより CCNA1 のライセンス取得 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2007 年 8 月 | シスコ・ネットワークングアカデミートレーニングにより CCNA2 のライセンス取得 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2007 年 8 月 | シスコ・ネットワークングアカデミーカンファレンスの研修に参加 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2007 年 12 月 | シスコ・ネットワークングアカデミートレーニングにより CCNA3 のライセンス取得 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2008 年 2 月 | シスコ・ネットワークングアカデミートレーニングにより CCNA4 の研修に参加 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 研 究 業 績 | | | | |
|---|---|-----------|---------------------------|---|
| 1 研究分野・活動 (記述式：350字以内) | 視覚聴覚二重障害者(盲ろう者)の福祉は、情報障害ともいわれる当事者の困難に対して、盲ろう者のための通訳・介助が期待され、自立と社会参加の実現に向けている。しかし、通訳・介助の方法と技術は、障害当事者も通訳・介助者も訓練を要することから、多くの場合、当事者となって、あるいは当事者性が高まってから習得する状況にある。このため、特に高齢や事故・病気による中途の視覚聴覚二重障害者の要求にこたえる通訳・介助は、直ちに導入しにくいことがある。本研究の目的は、中途の視覚聴覚二重障害者が容易に導入できるコミュニケーション方法の構築である。そのために、視覚聴覚二重障害の当事者と健常の非当事者に対して、情報保障に基づく情報バリアフリーのアプローチをとる。 | | | |
| 2 研究課題 (今後の展開・可能性を含む) (記述式：350字以内) | <p>本研究で検討するコミュニケーション方法は、中途の視覚聴覚二重障害者向けの情報保障を実現するために、健常者にも有用であることと、簡単、安価、幅広い年代に親しめることが求められる。</p> <p>言語情報に対しては、残存する感覚の触覚を用いることが期待されている。本研究では、本人の言語生活に応じた点字の学習や指導の方法を検討する。また、健常者に対して、視覚聴覚二重障害者の理解という啓発的影響と、点字習得の有意性と学習方法を検討する。</p> <p>通訳・介助者が存在する情報伝達の方法には、リアルタイムに近い言語情報を用いることができるが、当事者単独では成立しないことが多い。当事者自らリアルタイムのコミュニケーションができるために、通訳・介助者の働きの一部を ICT の機能として実装することを検討する。ここでは、言語情報の特性から音声の伝達に着目する。</p> | | | |
| 3 研究助成等 (主要5件程度) | <p>(1) 文部科学省科学研究費</p> <p>(2) 学内</p> <p>(3) 学外</p> <p>・平成22年度拓殖大学人文科学研究所個人研究助成 研究期間：平成22年4月1日から平成23年3月31日 研究課題名：学習効果向上のためのコンテンツ自動作成システムの評価 －拓殖大学北海道短期大学における e-learning システムを活用した入学準備教育－</p> | | | |
| 4 資格・特許等 (主要3件以内) | <p>高等学校教諭専修免許 (工業)</p> <p>職業訓練指導員免許 (電気科)</p> <p>職業訓練指導員免許 (電子科)</p> <p>職業訓練指導員免許 (電気通信科)</p> | | | |
| 著書、学術論文、作品等の名称 (主要15件以内) | 単著、共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行又は発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 要 約 |
| [学位論文] | | | | |
| 剣道競技に於ける電子計測の応用に関する研究 | 単著 | 2000年3月 | 明星大学大学院 理工学研究科 修士論文 | 剣道の試合や段級審査における審判員の判定条件は、間合い・打突部位・竹刀の打突部・気勢・姿勢・刀筋・残心・打撃力・打突の冴えなどがある。これらは審判員の視覚情報のみならず、聴覚に伝わる打撃音によっても判断されることが考えられる。現在、打撃成果は審判員の主観によって判定されており、不公平や地域格差が問題となっている。ここでは、公正な判定の一助とするため、電子計測の応用を試みた。その結果、剣道競技者の熟練度による差が認められ、さらに練習曲線を統計的に求め、報告した。 |
| [学術論文] | | | | |
| 打撃スピードの変化に伴う竹刀の動きと打撃音・打撃圧 | 共著 | 2000年3月 | 明星大学 研究紀要 | 打撃時の衝撃力を示す打撃圧と打撃音の関係は強い相関をもっている。さらに、打撃音の過渡状態において「冴えた打撃音」を分離可能であり、剣道技能の優劣や上達度を測ることが可能となっている。ここでは、竹刀の操作テクニックの違いが打撃音発生に与える影響を検討した。小手打撃の動作に「打ち型」「突き型」の変化をもたせ、竹刀の操作テクニックと打撃音の特徴を捉え、報告した。 |
| 視覚障がい者のためのペン入力触覚ガイドを用いた二次元配列位置情報の入力手法の改良と評価 | 共著 | 2011年1月 | 電子情報通信学会論文誌 | 本論文は、二次元配列の位置情報を利用した、視覚障がい者のための入力インタフェースを提案する。この入力インタフェースは、ペンタブレット上に9×9個のポジションホールが配置されたペン入力触覚ガイドと、音像定位による音響フィードバックから構成される。入力図形は、点、線分、及びその組合せであり、それらは二次元配列で作成可能なものである。まず、いくつかのアプローチを用いて、ペン入力触覚ガイドの性能の改良を検討した。その結果、改良されたペン入力触覚ガイドを用いた実験により、簡易図形を正確に短時間で入力できることが示された。現在、本インタフェース・システムを用いた視覚障がい者用オセロゲームへの応用を検討している。視覚障がい者のための図形教育への応用は今後の課題である。 |

| | | | | |
|--|-----------|-----------------|---|--|
| <p>拓殖大学北海道短期大学における e-learning システムを活用した入学準備教育</p> <p>—入学準備教育の実施と今後の課題—</p> | <p>共著</p> | <p>2011年3月</p> | <p>拓殖大学人文科学研究所紀要</p> | <p>拓殖大学北海道短期大学では、2003年度のAO入試の開始と同時に入学準備教育を導入した。また、経営経済科では2010年1月から2010年3月までの3ヶ月間、学習習慣の維持には、学習管理と双方向性が必要であると考え、e-learning システムを活用して実施した。実施結果より、現在大学が置かれている環境から、入学準備教育の必要性を確認した。</p> <p>第2章では、拓殖大学北海道短期大学経営経済科において2009年度にe-learning システムを活用して実施した入学準備教育の概要と学習状況について述べた。続く第3章では受講後に受講生を対象に行った入学準備教育の評価に関するアンケート調査の結果を述べ、第4章では実施結果に関して考察した。第5章では今後の課題と改善方法を検討した。</p> |
| <p>Effects and Evaluation of a Pre-School Education Program Using an E-learning System</p> | <p>共著</p> | <p>2011年8月</p> | <p>International Journal of Computer Science and Information Security</p> | <p>At universities, new students' scholastic achievements have become more varied because of the university's increased entrance ratio. Each university must now work to improve new students' scholastic achievements. This study aims to develop a system to ensure new students' scholastic achievements. We implemented the pre-school education program using an e-learning system in the three months before entering a university and investigated the program's effects. The targets include the participating and non-participating new students. The investigation data are students' attendance and question responses after entering college. Results of attendance and question response data showed that participating new students maintained study habits after entering school.</p> |
| <p>入学準備教育における学術的学習サイクルの適用</p> <p>—e-learning システムによる学習プロセスの意識調査とその結果—</p> | <p>共著</p> | <p>2011年10月</p> | <p>拓殖大学人文科学研究所紀要</p> | <p>本研究の目的は遠隔地の留学生を対象に学習内容を日本語聴解に限定してe-learning システムによる入学準備教育を実施し、その教育方法や学術的学習サイクルの適用の有効性を確認することである。本稿においては、教材利用回数など実施状況のデータ、アンケートによる意識調査や年度別の日本語能力試験合格率をもとに検討した。</p> <p>その結果、学習前から学習後にかけて「日本語を聞く」ことに対する意欲は維持され自信は肯定的に変化し、本教育に対する達成感や満足感を得ていることが確認された。更に、日本語能力試験合格率は本教育を受けたグループの方が受けなかった過去のグループより高いという傾向が示された。</p> |
| <p>[学会]</p> | | | | |
| <p>剣道の練習過程における上達の分析</p> | <p>共著</p> | <p>1999年3月</p> | <p>日本武道学会 第32回大会</p> | <p>打撃圧の分析によって、熟練度での分析が可能であることが確かめられたことから、実際の試合ではなく、教育目的として利用するのであれば、技能差の判定は打撃音によっても可能ではないかと考えた。</p> <p>剣道競技の練習過程において、打撃時に発生する打撃音を分析し、打撃技術の上達の様子を打撃音の変化から評価できることを報告した。</p> |
| <p>「小手」打撃スピードの変化に伴う打撃音・打撃圧・打撃動作の関係</p> | <p>共著</p> | <p>1999年3月</p> | <p>日本武道学会 第32回大会</p> | <p>剣道の打撃時に発生する打撃音は、打撃成果を評価するための大切な聴覚情報である。今回は、特に試合場面における小手打ちの判定が難しいことの要因を検討した。小手打ちは、打撃部が小さく竹刀先端の動きが小さいため、視覚情報や聴覚情報からの判定の難易性が考えられる。そこで、被験者の小手打撃スピードを意図的に変化させ、その変化に伴う打撃音、打撃圧、打撃動作について分析した。小手打撃成果の特徴と共に、小手打ち判定を難しくする要因について報告した。</p> |

| | | | | |
|--|-----------|-----------------|-----------------------|--|
| <p>触覚と聴覚を利用した視覚障がい者用図形入力インタフェースにおける入力支援</p> | <p>共著</p> | <p>2008年12月</p> | <p>電子情報通信学会技術研究報告</p> | <p>In this paper, We had study on input support of figure input interface using tactile and auditory senses for the visually impaired. In order to make formal figure, we prepared an acrylic pen input tactile sense guide. This guide has 9 by 9 lattice of holes which correspond to 9 by 9 localized sound feedback. We had conduct experiments by 3 types of input method which the Discrete input method and the Linear input method and then the Start and End point input method. Experiments show that the subjects can input figure quickly and correctly.</p> |
| <p>短期大学の入学予定者を対象とした入学準備教育における e-learning システムの活用</p> | <p>共著</p> | <p>2010年7月</p> | <p>日本教育工学会研究報告集</p> | <p>学生生活の理解や基礎学力の向上のため、短期大学では入学予定者に対する入学準備教育の実施を求められている。この要求に対して、2010年1月から3月の3ヶ月間、e-learning システムを活用し、社会科学系短期大学の日本人学生と留学生の入学予定者を対象とした入学準備教育を実施した。本研究では、この学習状況と実施結果を報告した。</p> |
| <p>入学準備教育に活用できるコンテンツ自動作成システムの評価</p> | <p>共著</p> | <p>2010年9月</p> | <p>社団法人私立大学情報教育協会</p> | <p>入学準備教育のための e ラーニング教材として、マルチメディア・コンテンツを開発した。語彙力、文章の読み方、講義ノートの取り方と留学生向け日本語会話能力の四つを準備した。受講者から高い評価が得られたものの、出題方法の改善など課題も明らかになった。</p> |
| <p>短期大学におけるマルチメディア・コンテンツを活用した e-learning システムによる入学準備教育の教育効果</p> | <p>共著</p> | <p>2011年5月</p> | <p>日本教育工学会研究報告集</p> | <p>マルチメディア・コンテンツを活用した e-learning システムによる入学準備教育を、短期大学の社会科学系学科で実施した。その結果、マルチメディア・コンテンツを活用して教材や課題の出題方法を工夫したことにより、受講生の学習への取り組み方が改善された。また、入学準備教育の受講生が入学後に受講する情報教育科目で学習習慣を維持する教育効果を確認した。</p> |
| <p>日本語聴解力養成のための e-learning システムによる入学準備教育 -中国在住の中国人留学生を対象に-</p> | <p>共著</p> | <p>2011年8月</p> | <p>跨文化交际中的的日语教育研究</p> | <p>日本語の聴解力不足は拓殖大学北海道短期大学の留学生にも散見されるため、学習習慣の確立と聴解能力の向上を目的とする入学準備教育を2010年より留学開始3カ月前の留学生を対象に実施している。</p> <p>2011年における本教育実施後のアンケート結果によると、「聞く」「話す」共に自信に対する評価が向上して改善傾向が認められた。また、自由記述による評価も概ね肯定的であり、本教育の修了時には学習習慣の形成がなされていたと考える。</p> <p>さらに、入学後に実施した試験結果によると、本教育の取り組みの程度と入学後の聴解力の向上の程度は一定の関係があり、入学後の取り組みにも影響を与えていることが確認された。</p> |
| <p>マルチメディア・コンテンツを活用した入学準備教育における出題方法の改善効果と情報教育科目の評価</p> | <p>共著</p> | <p>2011年9月</p> | <p>社団法人私立大学情報教育協会</p> | <p>入学前教育の受講生が入学後の「情報教育」科目において、学習習慣を維持していることを確認した。マルチメディア・コンテンツを活用して出題方法を改善したことにより、受講生は入学後の「情報教育」において昨年度の受講生と比べて学習習慣が高くなっていることが確認できた。</p> |
| <p>視覚障害者のための音の移動感を用いた線形図形の生成による図形教育への応用</p> | <p>共著</p> | <p>2013年10月</p> | <p>電子情報通信学会技術研究報告</p> | <p>本研究は、線形図形を視覚障害児自ら生成することにより、図形の点対称や回転の概念などの基礎的な性質を学習するための図形教育システムを検討した。扱う図形は最大6本の線で構成される簡単なものである。線分およびその組合せからなる簡単な図形は、仮想音響スクリーン上の音の移動感によって表現できる。この手法と入力触覚ガイドを併用し、視覚障害児が図形の基礎的な性質を学習するための図形教育システムを構築した。このシステムにより、擬似視覚障害者を被験者として、簡単な線形図形を正確に入出力できるインタフェース性能を確認する実験を行った。実験の結果、意図した図形を正確に入出力でき、図形教育への可能性を確認した。</p> |

| | | | | | | |
|--|----------------------------|--|----------------|--|----------|--|
| 視覚聴覚二重障害のある大学進学希望者のための e ラーニングによる入学準備教育の検討 | 共著 | 2015年9月 | 社団法人私立大学情報教育協会 | 本研究の目的は、視覚聴覚二重障害のある大学進学希望者が不足する学力や能力を補うために、特別支援学校高等部と大学との連携による入学準備教育システムを構築することである。本稿は、eラーニングによる入学準備教育の必要性を把握することを目的として、特別支援学校の教員を対象とした意識調査により検討した。意識調査の結果、肯定的な意見が得られ、eラーニングの利用が期待され、教育を支援するアシスタントも加わり補いあうとよいことがわかった。 | | |
| その他 | | | | | | |
| Effects and Evaluation of a Pre-School Education Program Using an E-learning System (抄録) | 共著 | 2011年10月 | 拓殖大学人文科学研究所紀要 | This report on our research results to date was made possible by a grant-in-aid for individual research, in fiscal year 2010, from the Institute for Research in the Humanities at Takushoku University. It was published in "Effects and Evaluation of a Pre-School Education Program Using an E-learning System" in the International Journal of Computer Science and Information Security (2011; Vol. 9, No. 8, pp. 32-38). | | |
| 研究業績 (過去3カ年分) | | | | 国際的活動の有無 | 社会的活動の有無 | |
| 著作数 | 論文数 | 学会等発表数 | その他 | | | |
| 0 | 0 | 2 | 0 | 有 | 有 | |
| 学 内 運 営 業 績 | | | | | | |
| 1 役職、各種委員会等 (主要10件程度) | 2007年4月～2008年3月 | 教務委員会 | | | | |
| | 2007年4月～現在 | ネットワーク管理運営委員会 | | | | |
| | 2008年4月～2012年3月 | 入試広報委員会 | | | | |
| | 2007年10月 | オープンカレッジ コンピューター基礎操作 講師 | | | | |
| | 2008年10月 | ふれあいカレッジ コンピューター入門 講師 | | | | |
| | 2009年10月 | ふれあいカレッジ コンピューター講座 講師 | | | | |
| | 2012年4月～2013年3月 | 教務委員会 | | | | |
| | 2013年4月～2014年3月 | 就職委員会 | | | | |
| | 2013年11月 | 保育セミナー「アレルギー対策を考える：エビベンを使ってみよう」講師 | | | | |
| 2014年4月～現在 | 入試広報委員会 | | | | | |
| 学 外 活 動 業 績 | | | | | | |
| 1 本学以外の機関（公的機関・民間団体等）を通しての活動 (主要10件程度) | 2007年5月～現在 | コンピュータサービス技能評価試験北海道試験委員 | | | | |
| | 2008年2月 | 深川市社会教育活性化推進委員会主催地域若者塾 | | | | |
| | 2008年6月～現在 | P検公認試験官 | | | | |
| | 2009年9月～現在 | 深川市立高等看護学院入学試験委員 | | | | |
| | 2009年11月 | ふかがわ元気会議、地域産業活性化部会会議 | | | | |
| | 2012年4月、11月 | ふかがわ地域資源活用会議 | | | | |
| | 2012年11月 | あさひかわキッズタウン（主催：北海道コカ・コーラボトリング株式会社 共催：旭川市子育て支援部、旭川市教育委員会）ボランティア | | | | |
| | 2014年3月～現在 | 大学でのP検「学年」導入事例、大学・短大「入試優遇/単位認定」情報 2014年度版・2015年版・2016年版 | | | | |
| | 2014年4月～現在 | ふかがわ地域資源活用会議監事 | | | | |
| | 2014年12月～現在 | 札幌盲ろう者福祉協会支援会員 | | | | |
| | 2015年4月～現在 | 深川市障がい者ネットワーク協会会員 | | | | |
| | 2015年11月～現在 | 障害者の演劇「夢プロジェクト」実行委員会委員（深川市） | | | | |
| | 2015年12月～現在 | デフ・パペットシアターひとみ深川公演実行委員会委員 | | | | |
| | 2016年2月 | 第5回深川市民公開講座「もし目や耳が不自由になったら」講師 | | | | |
| | 2 学会・学術団体等の活動 (主要10件程度) | 2007年2月～現在 | 日本武道学会 正会員 | | | |
| | | 2007年2月～現在 | 電子情報通信学会 正会員 | | | |
| 2011年11月～現在 | | 日本教育工学会 正会員 | | | | |
| 2014年9月～現在 | | 情報処理学会 正会員 | | | | |